

# 水 振 協 ニ ュ ー ス

(平成 25 年度号)

編集・発行 (公財) 滋賀県水産振興協会 草津市志那町柿根 1393-2  
TEL 077 (568) 3451  
FAX 077 (568) 3788

平成 25 年度の事業結果は・・・

- ・「ニゴロブナ 1,572.7 万尾・ホンモロコ 1,261 万尾・ワタカ 40.6 万尾」を放流！
- ・「人工河川 アユ親魚 通常放流に加えて平成 25 年度も緊急追加放流」を実施！
- 「37.8 億尾のアユふ化仔魚」が琵琶湖へ流下！

平成 25 年度の放流量は、ニゴロブナ 1,572.7 万尾、ホンモロコ 1,261 万尾、ワタカ 40.6 万尾となり、計画を達成することができました。各漁業組合、水産試験場には、種苗生産、放流及び標識調査にご協力頂きありがとうございました。また、アユの人工河川管理運用事業につきましては、平成 25 年度も、通常の親魚放流量 13,500 kg(養成、天然親魚を含む)に加えて、昨年度に続き緊急資源対策として、10,000 kgの養成親魚を追加放流しました。

## ニゴロブナ

2 cm稚魚の放流尾数は、水田育成が 1,204 万尾(計画 800 万尾)、栽培漁業センターでの生産放流が 52.4 万尾で、合計 1256.4 万尾でした。また、平均体重 16.3 g の大型稚魚 66.7 万尾を栽培漁業センター、平均体重 20.5 g の大型稚魚 34.4 万尾を北山田地先筏(草津市)で生産し、さらに滋賀県漁業協同組合連合会(県漁連)から平均体重 21.4 g の大型稚魚 9.2 万尾を購入し、合計で 110.3 万尾(計画 95 万尾)を放流しました。その他に、県漁連では平均体重 22.3 g の大型稚魚 30 万尾を独自事業として放流しています。

**水田育成** 主に沿湖漁業協同組合の御協力により実施し、561 反の水田にふ化仔魚換算で 2,360.8 万尾を放養し、約 1 か月後の中干時に 2~3 cmの稚魚 1,204 万尾を琵琶湖に放流しました。水田からの稚魚の流下率(流下尾数/放養尾数)は約 51%でした。

また、西の湖周辺の水田(常楽寺地区) 50.6 反にふ化仔魚 206 万尾(計画 200 万尾)を放養しました。水産試験場の調査によりますと、流下率(流下尾数/放養尾数)が約 26%で、53.5 万尾の稚魚が西の湖に流下しました。

**放流効果** 当協会では種苗放流の事業効果を知るために、平成 26 年 2~3 月の今冬季に、小糸網、沖曳網漁業で漁獲されたニゴロブナの標識調査を行っています。今冬季の放流魚の混獲率(漁獲魚に占める放流魚の割合)は調査中ですが、平成 25 年 2~3 月の冬季の放流魚の混獲率は 50.5%(昨年は 72.6%)で、昨年比べて低くなりました。このことは、逆に天然魚の割合が増加していることがうかがえる結果となっています。また、水田放流の稚魚と沖合及び沿岸に放流し

た大型稚魚の混獲の割合は、ほぼ半々でした。

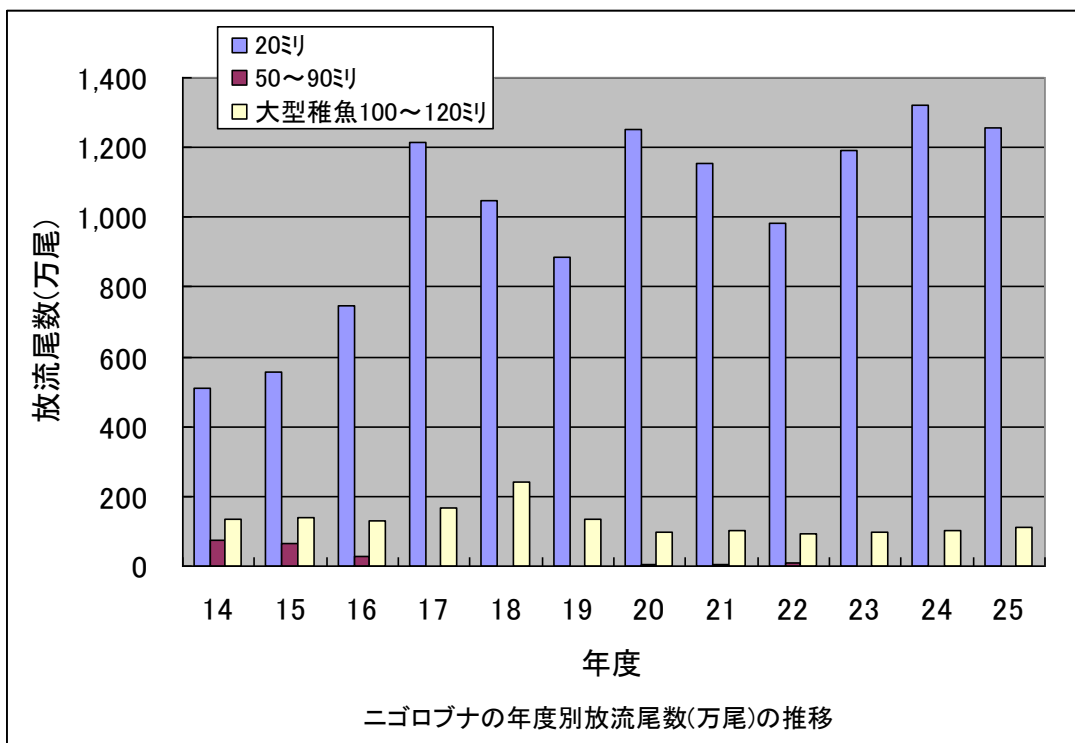
一方、平成 25 年 4～6 月の産卵期に主に針江沿岸帯(高島市)で漁獲されたニゴロブナの標識調査では、混獲率は天然魚が 55.0% (昨年は 47.6%)、放流魚は 45.0% (昨年は 52.4%) で、昨年とほぼ同じ割合でした。このことから、放流魚、天然魚とも産卵のため沿岸帯に来遊し、産卵繁殖に貢献していることがわかります。



ニゴロブナふ化仔魚を水田へ放養



ニゴロブナ大型稚魚の放流



## ホンモロコ

**水田育成** 平成 25 年度も、昨年度に続きニゴロブナと同様に、より放流効果の高い水田の生産力を利用して 2～3 cm の稚魚に育ててから、中干時に琵琶湖へ放流しました。詳細につきましては、主に沿湖の土地改良区管内の農業者さんの御協力により実施し、918.7 反の水田にふ化仔魚換算で 2,902 万尾を放養し、約 1 か月後の中干時に 2～3 cm の稚魚 911 万尾(計画 800 万尾)を琵琶湖に放流しました。水田からの稚魚の流下率(流下尾数/放養尾数)は約 31%でした。

また、西の湖周辺の水田(常楽寺地区) 71.1 反にふ化仔魚 232 万尾(計画 200 万尾)を放養しました。水産試験場の調査によりますと、流下率(流下尾数/放養尾数)が約 33%で、77.4 万尾の稚魚が西の湖に流下しました。

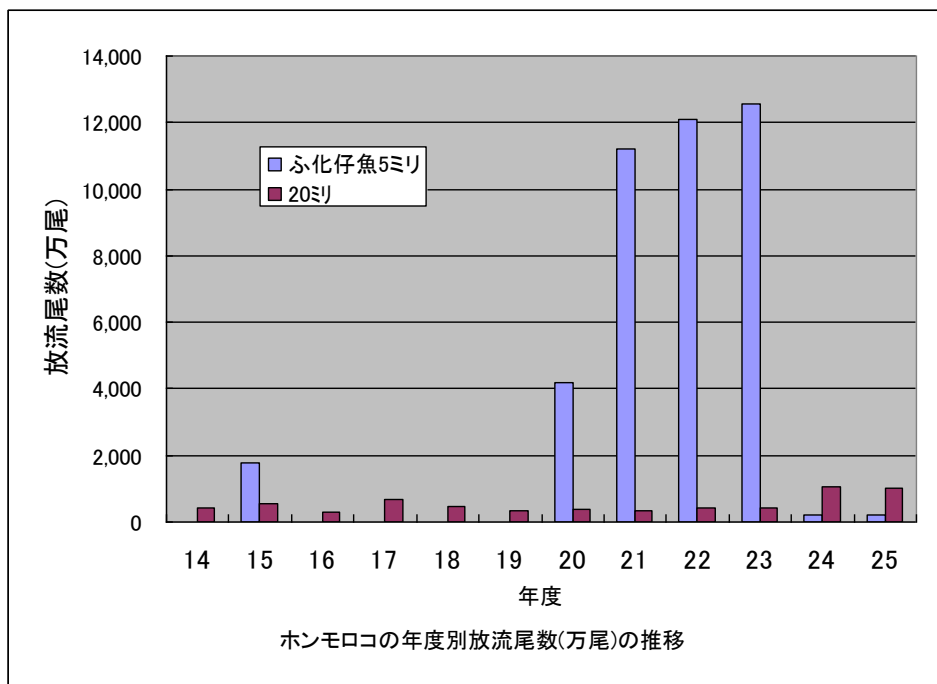
**北山田地先筏** 北山田地先筏(草津市)においても 2 cm の稚魚を生産し、118 万尾(計画 100 万尾)を南湖(草津市下笠地先)に放流しました。



ホンモロコふ化仔魚を水田へ放養



2～3cmの稚魚に育ったホンモロコ



## ワタカ

栽培漁業センターでワタカ 5 cm稚魚 40.6 万尾(計画 39 万尾)を生産し、主に南湖に放流しました。

琵琶湖南部を中心に漁獲された 451 尾について標識調査を行い、その結果、漁獲されたワタカのうち放流魚は、81.8%(昨年は 95.3%)を占めていることがわかりました。



ワタカ稚魚の放流



ワタカの標識調査

## アユ (人工河川管理運用事業)

平成 25 年度も、昨年度に続き天然産卵量が少ない(平年比約 40%、水産試験場調査)ことから、来季のアユ資源量の減少が危惧されました。このため、緊急資源対策として通常の放流(親魚放流量 13,500 kg)に加えて、9月中旬から10月上旬にかけて産卵可能な養成親魚 10,000 kgを安曇川人工河川へ追加放流しました。その結果、9月11日～10月22日にかけて合計で 37.8 億尾(前年比約 1.31 倍) のふ化仔魚を琵琶湖へ流下させました。



養成親魚の緊急追加放流  
(安曇川人工河川)



流下ふ化仔魚調査(安曇川人工河川)

(公財) 滋賀県水産振興協会では、漁獲量のアンケート調査を、平成 26 年度も行います。大切な調査ですので、ご協力のほどよろしくお願いします。